

## 第 77 回 紫友まち歩き 等々力溪谷

暑い暑い夏のまち歩きは、熱中症対策を十分にしての参加。さらに、夏の等々力溪谷は、やぶ蚊に刺されるかもと長袖や蚊刺され防止薬の準備をしての参加となりました。何匹に刺されたでしょうか。天気は問題なしの晴れでした。

日時：2017年7月22日(土)

集合時間：13時00分

集合場所：東急大井町線九品仏駅集合

参加者：19名参加

案内人：笠井 014・脇田 017

懇親会：二子玉川駅そば「たまゆら」

懇親会参加者：15名

歩いた歩数：12,000歩（笠井案内人）

<まち歩き>:

### ■まち歩き行程

九品仏駅発→浄真寺→九品仏駅から等々力駅へ電車移動→等々力溪谷見学（ゴルフ橋から）→野毛大塚古墳→等々力溪谷3号横穴→不動の滝と等々力不動尊→日本庭園→多摩堤通りへ→バスで玉堤小学校から明神池前駅へ→二子玉川公園帰真園→懇親会→二子玉川駅で解散

<スタート>

写真を見ながら楽しんでください。なお、説明の多くは案内人からの説明文からの引用です。

### ① 九品仏駅発:

改札前で集合。暑い。熱中症注意。



<案内人解説>東急大井町線の「自由が丘」駅は、かつて「九品仏（くほんぶつ）前」駅だったのをご存じだろうか？と案内人。

「自由が丘」が人気になる前、一帯はむしろ「九品仏 浄真寺」の門前町と認識されていたようだ。「九品仏」の名は「浄真寺」に安置されている9体の阿弥陀如来像に由来する。

### ② 浄真寺:

改札から左に歩くと信号の先が浄土宗浄真寺入り口。立派な参道の並木の影を歩いていく。



総門の扁額「般舟場」の読み方は、ばんじゅじょうと説明あり。



a) 仁王門を通過して、三仏堂に向かう。

b) 三仏堂:「下品堂」、「上品堂」、「中品堂」の順番に拝む。





中品上生仏像は、現在、修繕のため京都に送られており、拝むことができなかった。

＜解説＞「三仏堂」は、中央に「上品堂」、左右に「下品堂」「中品堂」を配し、それぞれの堂内に上生・中生・下生3体の阿弥陀如来坐像が置かれている。ある經典に「極楽往生には9つの段階がある」と説かれており、信仰心の篤い順に、上品（じょうぼん）・中品・下品の三品があって、各品のそれぞれが上生（じょうしょう）・中生・下生に分かれる。 $3 \times 3 = 9$ 、すなわち「九品」になるというわけだ。

c) 本堂。

d) 関東屈指の名鐘とされる宝永5年（1708年）建立の「鐘楼」の4周には、十二支が彫られている。



### ③ 九品仏駅から等々力駅へ電車移動：

等々力駅で、参加する仲間と会い、等々力溪谷に向かっていく。歩いて数分。



まだ少し早かったので残念であるが、鶯草園（庭）を見学。



#### ④ 等々力溪谷見学：

等々力溪谷への入り口前には、下の溪谷（なんと30mほど削られている）と現在地の各温度の表示がある。約3度涼しい。うれしい。



赤い鉄のアーチ橋であるゴルフ橋の下のあたりが、案内人による矢沢川が、九品仏川を争奪した場所だという。



＜解説＞短いが水量豊富な矢沢川は、上流へ向かってどんどん川底を削り、ついには、北方を流れていた「九品仏川」に到達。その水を取り込んでしまった（このような取り込みを、専門家は「争奪」という物騒な言葉で呼んでいる）。

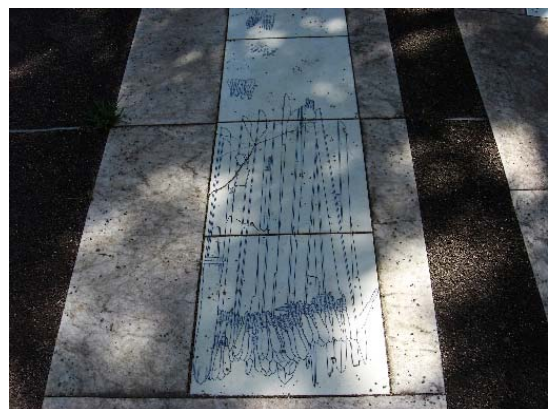


木漏れ日を受けている溪谷の川は透き通っている。

湧水できれいなのだろう。（信じよう）川に入って水遊びをしている子供もいた。また、蚊もほとんどいなかったよう。

#### ⑤野毛大塚古墳：

環状8号の下を通り過ぎて、少し先を右に上っていく。暑い中を野毛大塚古墳入口に着く。一部の人がどこかに行ってしまったので、しばらく待つことになった。連絡を取り、野毛大塚古墳の頂上で再会。ここは良い風が吹いていて涼しい。埋蔵施設の説明石板を読む。



＜解説＞5世紀の初めに造営されたこの古墳は、全長8.2m、高さ1.1mのホタテ貝型・前方後円墳で、1897（明治30）年、地元の青年が頂上部分を掘って、石棺と、中に収められた甲冑、大量の石製模造品を発見した。畿内王権と関わりの深い豪族大首長の墓所であったと推定されている。頂上に上れば、発掘された埋蔵施設の位置・形を示す石板を見ることができる。

#### ⑥ 等々力溪谷3号横穴：

再度、等々力溪谷に戻り、左岸の斜面中腹につくられた横穴墓を見る。





少し前に見た古墳の時代ではなく、7世紀後半から8世紀の初頭、つまり奈良時代の初め頃につくられたものであるだろうと案内人。より簡素な墓がつくられるようになったのだ。

＜解説＞奥行4. 9mの3号墓は、トックリを半分に割ったような形をしており、成人男女2体と子ども1体の人骨、金銅製の耳環2点、須恵器の瓶や土師器の杯などが出土している。

#### ⑦不動の滝と等々力不動尊：

川を少し下ると、左側に不動の滝がある。現在はチョロチョロとしか流れていないが、昔はゴウゴウと轟く水音を発していたのだろうと想像。



さらに滝の横の階段を上ると展望台がある。ここからの溪谷の緑は涼やかだった。



また、等々力不動尊の参拝で鳴らす鈴の音が、涼やかな音を出していたのが印象に残った。



ここは正式には、瀧轟山明王院等々力不動尊。



#### ⑧日本庭園：

入ろうか、どうしようかと少し悩んだが、門から中をちょっと見て終了。

#### ⑨多摩堤通りへ：

溪谷が終わると徐々に住宅が増えてくる。川向こうの家に渡るため1軒1軒に橋が架かっているところもあって面白い。





さらに進むと、谷沢川と丸子川（旧・六郷用水）が交差するところに出る。ここであれこれと流れの制御について議論をする。定期的にある量をポンプで吸い上げて流している。結論は？



＜解説＞半立体交差のような複雑な形になっており、谷沢川の水の一部を丸子川に流しているところもあるが、これは、洪水に備えて、複数の水路を確保するための工夫ということだ。（六郷用水の歴史的遺産の保護と環境保護のための清流復活事業として、合流した川の水の一部をポンプで引き上げ、ここから下流の丸子川に流している。）

#### ⑩バスで玉堤小学校駅から明神池前駅へ：

良いタイミングでバスが来たので乗り込む。暑いのでバスを選択。歩かなくてよかったとの声が多かつ

た。



#### ⑪二子玉川公園 帰真園：



右手の堤に上がって「二子玉川公園」に入っていく。園内に「帰真園」という回遊式の日本庭園があり、そこに世田谷区登録有形文化財「旧清水家住宅書院」が建っている。



＜解説＞明治時代、(株)清水建設の創始者である清水家の屋敷が台東区の根岸にあり、その一角に“離れ”として建てられたのがこの書院だった。ここに移築・復元された。

#### ⑪懇親会前の時間つぶし：

二子玉川駅に向かう途中のコンビニで、ビールなどの飲み物を購入して、そばの二子玉川ライズショッピングセンターの一角でしばしの懇談会をする。



二子玉川駅で解散。

お疲れさまでした。

最後は、この二子玉川ライズショッピングセンターの屋上見学。大山などが見える場所もあり、涼しい風が吹いていた。遠くでは雨が降っているようだ。



#### ⑫懇親会：

冷えたビールでのどをうるおしながら、ニコタマの「真夏の夜の夢」をお楽しみいただけたものと案内人は確信している。との案内人感想に納得して集合写真を撮る。



3時間の懇親を楽しむ。